

令和2年9月7日
Vol.5

中津高職員が届ける

卒業生からのメッセージ

今回は渡邊卓哉教頭先生が届ける、医師としてご活躍の横家正樹先生からのメッセージです。

* まずは紹介者である渡邊教頭について

横家先生とは良き友、そして良きライバルでもあった渡邊教頭。当時中津高校の体育祭では、2年生陸上部のキャプテンがトーチ点火を担当しました。写真は運動神経抜群の渡邊教頭がその大役を務めた時の一枚です。

また校内マラソンではなんと3年連続1位という素晴らしい成績を残しています。もはやレジェンドですね！



~~~~ここからは横家医師からのメッセージをお届けします。~~~~

## その① 中津高校での思い出

私は中学時代(市立第二中学卒です)からソフトテニスをやっており、高校に入ってからでもテニスを続け、中津高校在学中はとにかく朝から晩まで部活動に明け暮れた毎日でした。旭稜祭の体育祭では応援合戦のための人文字を皆で考案したり…と、今思い起こせば充実した高校生活を送れたと思います。良き友・良き恩師に巡りあえたことは勿論大きな財産になっています(その当時は「充実した高校生活」や「良き友・良き恩師」だなんて全く考えてもいないのですが、歳を重ねるとつくづくそう思います)。**校内マラソン**では、当時陸上部とサッカー一部、それにソフトテニス部がいつも上位を競い合っていました。渡邊教頭先生には最後まで勝つことが出来ませんでした。

ここで校内マラソンについて解説します！！

正式には、「耐寒マラソン」と呼ばれていました。中津高校伝統行事。

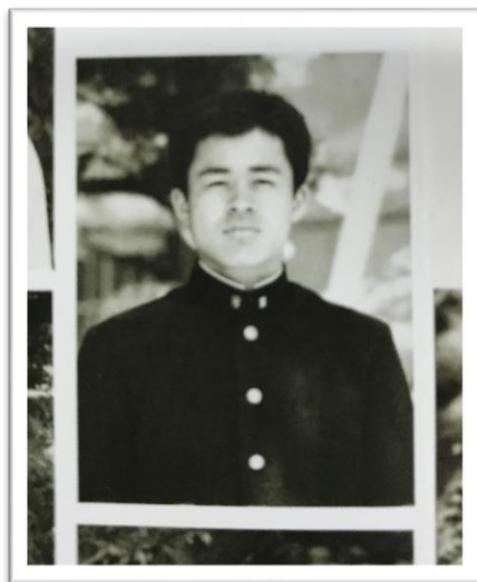
男子20キロ、女子10キロの距離を激走。

部活動によっては順位のノルマが設けられていたとか…。

## その② 医者を目指して

小学5年生の時に同級生が突然の病で亡くなったことがあります、その頃から漠然と医者を目指すようになった気がします。その後中学・高校と前述の如く部活動に明け暮れていたこともあり、いつしか「医学部受験なんて非現実的である」という思いに変わってしまいました。当時の模擬試験の偏差値はいつも50程度で、案の定センター試験(共通テスト)の前身であった共通一次試験は全く振るいませんでした。某私立大学薬学部になんとか補欠合格出来ましたので、高校卒業後はそちらで大学生活を送っていましたが、大学で医療関連の講義を受けるにつれ、中学の頃まで封印されていた思いが沸々と湧いてくるようになりました。中学や高校の時の担任だった先生にも相談し何とか親も説得して、医学部受験のため1年限定で東京の予備校に行かせてもらうことになりました(周囲からは、正直あまり肯定的な意見が聞かれない中で、チャンスくれた両親には本当に感謝しています)。予備校の1年間は寝ている時間以外はとにかく勉強ばかりしてしまいましたので、当時の東京のことなど何も知りません。センター試験は東京で受けましたが、ちょうど成人式と重なったため式には出席出来ませんでした。

その後の細かい経緯がありますが、共通テストの結果が思いのほか良かったため、何とか国立大学の医学部合格につなげることが出来ました。



卒業アルバムより 向かって左が横家医師、右側が渡邊教頭

### その③ 医者として

大学を卒業し医師国家試験合格後(この時の受験勉強も、大学入試の時と同様の気持ちで取り組んでいたと思います)、救急医療を中心に内科や外科、小児科や産婦人科等をまんべんなく出来るような医者になりたかったため、大阪の某病院で臨床研修を受けました。緊急手術に積極的に入ったり、重症患者さんを入院で受け持つと1週間以上は病院の集中治療室に泊まり込んで管理を行ったりと、たくさんの患者さんを診せてもらいながら医者としてのスキルを身につけていくことが出来ました。研修後は、各地の最前線の臨床病院で循環器専門医・救急専門医として診療に従事し、中津川市民病院にも5年ほど赴任することが出来、現在岐阜市の市中病院で仕事をしています。



### その④ 在校生の方へ

高校時代のありとあらゆる経験は、間違いなくその後の自分の人生につながる大切な肥やしになると実感しています。また皆さんが熱い志を持っている限りは、道は必ず開けていくと思います(「何となく…」で考えていたとしたら、多分私は挫折していたでしょう)。

現在の中津高校は、私が在学していた時とは比べ物にならないほど数多くの経験を積ませてもらえる環境が備わっていると聞いています。世の中に羽ばたいていくための大切な準備期間をぜひ中津高校で謳歌して下さい。

### その⑤ 最後に…

未曾有の新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっています。実際に感染した患者さんへの対応はもちろんですが、そうでない方であっても、「熱がある」と医療機関を訪れた患者さんには、新型コロナウイルス感染者ではないことが判明するまでは医療従事者たちは神経をすり減らしながら対応しないといけません。通常の診療行為も制限せざるを得ない状況が、私の働いている病院にも起こっています。

皆さんも、中津川地域の医療崩壊を起こさないように、くれぐれも油断しないよう行動してください。